



古河花火大会

古河市

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとの密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県古河市です。古河支店長が古河市長 針谷力氏にお話を伺いました。

古河市は「筑波経済月報」第24号(2015年7月)第24回本コーナーにて紹介させていただきました。改めまして、市の魅力や特徴、展望についてお聞かせください。

■関東の中央、自由に動けるポテンシャルの高いまち

「県境は辺境」。このようなイメージを持つ方は多いかと思います。しかし、本市は、関東地方の中央に位置しているため、さまざまな方面に自由に動けるという大きな特徴を持つまちです。

特に、商圏では、都内をはじめ、さいたま市や宇都宮市等、近隣他県のさまざまな地域と協力体制を築くことができる強みを持っています。

交通面を見ると、JR古河駅にはJR東北本線(愛称：宇都宮線)が乗り入れ、東京まで約1時間、さいたま市や宇都宮市へは約40分とアクセス性に優れています。これに加えて、上野東京ラインが開通したことで、湘南新宿ラインと合わせた運行本数が大幅に増え、東京23区がより身近な通勤圏となりました。



JR古河駅を中心とした市街地と渡良瀬遊水地

また、圏央道の開通や日野自動車株式会社の古河工場開設等に伴い、市内の関連企業等が活気付き、従業員やその家族の流入も進んでいます。

さらに、本市は、高低差が少ない住みやすい地形で、ラムサール条約湿地に登録されている「渡良瀬遊水地」や雄大な利根川に面する等、自然環境にも恵まれています。

このようなことから、本市はポテンシャルの高いまちとして、注目を浴びています。



市長
針谷 力氏



副市長
青木 善和氏



教育長
鈴木 章二氏



企画政策部長
中田 昌宏氏



古河支店長
田口 義文

■市民ファースト。市民の暮らしを守る国土強靱化計画

昭和22年のカスリーン台風では利根川が決壊し、未曾有の大水害が発生しました。この経験から、本市の市民は水害に対して常に高い関心を持っています。そのため、古河地区で水害が発生した場合に避難できる場所を市内に確保できたことは、合併の大きな成果だと考えています。

しかし、地震や竜巻等の災害は、いつどこで起こるかはわかりません。また、私自身も、市長として最も大切なことは、市民が「安心・安全」に暮らせる環境を整えることだと考えています。そこで、本市は、県内の市町村で最も早く「国土強靱化計画」を策定しました。

この計画は、本市で想定される全ての大規模自然災害等から市民の生命と財産を守り、地域への致命的な被害を回避し、速やかな復旧復興に資する施策を計画的に推進することを目的としています。今後、総力を挙げて、本市の強靱化に取り組んでまいります。

■先導的プロジェクトを推進

本市は、平成17年に古河市、総和町、三和町が合併して新しい「古河市」となって以降、方向性と基礎を築くために策定した「新市建設計画」や「古河市総合計画」に基づき、まちづくりに取り組んできました。しかし、社会状況の変化等に伴い、本市の抱える課題も大きく変化しています。合併から13年が経過した現在において、市民ニーズがどのように変化しているのか等を把握するため、昨年8月に市民アンケートを行いました。

その結果、回答者の約9割がプロジェクトそのものを認識していないことが浮き彫りとなりました。今後、あらためて合併時の約束であるプロジェクトについて、周知活動を行う必要があると感じています。

まずは、特に経済効果が高いと考えられる新駅〔(仮称)南古河駅〕整備の実現に向け、地元住民や市民と情報を共有しながら、事業を推進する考えです。本市にもう一つ鉄道の拠点ができることで、市民がその利便性を享受できるとともに、本市以外にもアピールできるため、より注目度が高まると思っています。

また、これまで、バブルの崩壊とともに保留地処分等が上手くいかず遅れ気味になっていた古河駅東部土地区画整理事業は、ここ数年の本市に対する注目度の向上で、状況が大きく変わってきました。

そのため、今年度の早い時期に、用途の方針を決定して事業の完了を目指すとともに、文化交流拠点の形成を推進する予定です。

また、可能な限り民間の力を活用して費用の節減を図るとともに、より良い内容にしたいと考えています。

■本市の伝統文化を守り、観光資源として活かす

本市は、室町時代後期から約130年間にわたり、関東に一大勢力を誇った古河公方くぼう(足利氏)が所在したまちです。また、江戸時代には、徳川譜代大名の城下町や日光奥州街道の要衝として栄えました。

そのため、本市の至るところにその時代の名残を感じる施設や建物等が残っており、多くの方に素晴らしいと感じてもらえるものだと自負しています。



時代の名残を感じる界隈（鷹見泉石記念館周辺）

その一つである古河公方公園は、世界の主要な文化景観の保護と管理を目的とした顕著な活動に対して功績をたたえる「文化景観の保護と管理に関するメリナ・メルクーリ国際賞」（ユネスコとギリシャが主催）を日本で初めて受賞しています。

受賞理由は、「東京近郊にあり開発圧力に耐えた」という総括評価のほか、「消滅沼(御所沼)の復元による自然と文化の再生」、「自然と人間との多様な接触を表現したデザイン」、「四季折々の自然に親しむ市民の営み」の三つの点が高く評価されたことにあります。

この評価の対象にもなった「御所沼」は、古河公方が沼の畔に館を構えたことに由来しています。昭和25年に水田利用のために埋め立てられましたが、平成に入り、復元されました。

また、本市には日本で唯一の篆刻美術館があります。篆刻は書道芸術の一つで、四書・五経や漢詩等から語句を選び、柔らかい石に篆書という古文字を刻んで紙に押した作品を鑑賞するものです。今後、キャッシュレス化が進み、印鑑文化が薄れることで、さらに希少価値が高まると考えています。

本市では、ふるさと納税の寄付者を対象に、「古河桃まつり」と篆刻体験等地場産品のPRをセットにしたツアーをこれまでに2回開催しました。寄付者との継続的なつながりを持つきっかけとして開催したことで「これまで古河市は通過するだけの場所だったけれど、今度は目的地として来てみようと思います」等の言葉を多くの方からいただき、開催した甲斐があったと感じています。



篆刻印作成の様子

さらに、本市には季節ごとのお祭りやラムサール条約湿地「渡良瀬遊水地」で行う「ヨシ焼き」等、他では体験できない伝統文化やイベントがあります。

これらを守るとともに、観光資源として活かしたツアーを企画し、本市のさらなるアピールにつなげたいと思います。

■「コガノイロ」でリアルタイムの情報を発信

リアルタイムで市の情報を発信するスマートフォンアプリ「コガノイロ」が4月15日からスタートします。

このアプリは、市の情報だけではなく、ごみ出しカレンダーや子育て日記帳、道案内機能付き施設マップやまち歩きマップ等のほか、災害時には電波の届かない状況でも避難場所を閲覧できるオフライン機能も備えています。

今後、より良い使い方を検討しながら、市民の「安心・安全」につなげたいと思います。

■施策の実施と逆転の発想で「古河市」をアピール

本市はポテンシャルの高いまちとして注目を浴び、県内で5番目に人口の多いまちになりました。しかし、残念ながら、他の自治体同様、徐々に人口は減少しています。

このような状況下では、必ず交流人口の大切さが問われます。本市は流入が多いまちですが、流出も多くあります。流出が多いと悪くとられがちですが、流出が多いということは、本市の出身者が、様々な場所で活躍しているということでもあり、逆に、流出がないまちは、閉鎖的で伸びしろがないということです。

私は、本市の出身者が本市以外の場所で活躍していても、ゲストとしてお越しいただいたり、良さをアピールする存在になっていただくことで、次の世代の方達が、本市に帰るきっかけにつながるのではないかと考えます。

あらゆる接点を大切にするとともに、新たなチャレンジや計画した施策を着実に進めることで、未来に誇れるまちをつかっていきたいと考えています。

■筑波銀行に期待すること

地方銀行の統合が続いていますが、今後も地域に密着した銀行として、より一層、地域企業や住民に対しての細やかなサポートをお願いするとともに、本市の商工振興事業や定住促進事業等、市政各方面にわたり、ご理解とご協力をお願いします。

取材日：2019年4月4日

写真提供：古河市